

千年の記憶がひもとく知られざる日本
～千年ロマン時空の旅～

豊の国千年ロマン観光圏整備計画



豊 の 国
千年ロマン
観 光 圏

大分県別府市、中津市、豊後高田市、杵築市
宇佐市、国東市、姫島村、日出町

千年の記憶がひもとく知られざる日本 千年ロマン時空の旅 豊の国千年ロマン観光圏整備計画

目次

はじめに

- ・計画策定の経緯と目的
- ・現状の成果・課題

I. 基本的事項

- (1) 観光圏の区域
- (2) 滞在促進地区の区域
- (3) 観光圏整備事業の実施体制
- (4) 観光圏整備計画の目標
- (5) 計画期間
- (6) 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映内容
- (7) 地域住民の観光地域づくりに対する意識啓発と参加促進を目指すための取組

II. 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針

III. 観光圏整備事業の概要

IV. 協議会に関する資料等

V. その他市町村又は都道府県が必要と認める事項

はじめに

<計画策定の経緯と目的>

豊の国千年ロマン観光圏は2010年1月に協議会として設立し、同年4月に観光圏として国から認定を受け、3期目となる現計画が今年度3月末で5年間の計画が終了する。

協議会を2017年4月に法人化するなど、地域が一体となった滞在交流型の観光地域づくりの取り組みが進む一方、社会環境の変化等から新たな課題も発生しており、前期計画を踏襲しながら、現状に即した新たな観光圏整備計画を作成し、世界に通用する競争力の高い観光地域づくりを目指す。

<主な成果>

1. KPI 達成状況

	単位	令和4年度目標	令和4年度実績	成果
延べ宿泊者数（年）	千人	3,612	2,616	72.4%
旅行消費額 一人あたり	円	30,854	35,042	113%
来訪者満足度 （大変満足の割合）	%	24.0	34.6	144%
一年以内の再来訪意向 （大変そう思うの割合）	%	23.7	23.1	97%
一年以内の再来訪意向 （そう思う・計）	%	71.3	67.1	94%
リピーター率	%	61.9	49.8	80%

2. 滞在交流型観光の成果

・観光地域づくりプラットフォームの体制強化

2010年に観光圏協議会が設立して、これまで（一社）別府市観光協会が観光地域づくりプラットフォームの役割を担ってきたが、当圏域で観光地域づくりの取り組みを専門に行う法人として（一社）豊の国千年ロマン観光圏を2017年4月に設立し、観光地域づくりプラットフォームとした。同年には観光庁より登録DMO（地域連携）として登録されるとともに、2020年、2021年には重点支援DMOとして認定され、観光庁を中心に様々な支援を受けられるようになった。

観光地域づくりプラットフォームは旅行業2種登録により、圏域内の着地型旅行商品の提供者と市場（旅行会社、旅行者）をつなぐワンストップ窓口の機能を有し、観光地域づくりマネージャーと連携して地域住民や民間事業者を巻き込む体制が確立できた。

・インバウンド誘客の成果

当地域の訪日外国人のほとんどが東アジア、特に韓国であったが、観光圏の取り組みでは主に欧米豪をターゲットとして差別化し、役割分担を明確にした。コロナ禍においてはインバウンド受入の準備期間として定め、特に欧米豪市場向けにアドベンチャーツーリズムを推進し、多言語ガイドやトレッキングやサイクリング等のアクティビティ、宿泊施設や

交通事業者が連携した受入体制を強化。これまで少なかった欧米系外国人の実績を獲得できるようになった。

3. 世界農業遺産、SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）等の認定と継続した取り組み
国東半島宇佐地域の「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」が、2013年に国際連合食糧農業機関（FAO）より世界農業遺産に認定され、10周年を迎えた今も取り組みが継続できている。

また、2020年には六郷満山文化や世界農業遺産に認定された循環型農林水産業の他、日本を代表する別府温泉など、歴史・自然・文化が色濃く残り、今なおそれが受け継がれている地域であるとして、農林水産省より SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）の認定を受けた。

姫島は2013年に日本ジオパークに認定されて今も継続した取り組みが行われており、「やばけい遊覧」「鬼が仏になった里 くにさき」が日本遺産に認定され、地域が一体となって取り組みが継続されている。

<主な課題>

・受入体制の弱体化

新型コロナウイルス感染症の拡大と長期化により、受入体制が弱体化している。観光客は回復しているものの、人材不足等の新たな問題が発生しており、観光施設や宿泊施設等の受入体制が万全ではない。また、農林水産業や伝統工芸、伝統芸能などの担い手の高齢化、後継者不足も課題となっている。

新たな担い手の確保のためには移住・定住につなげることが重要であり、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりが重要である。

・観光地域づくりプラットフォームの組織強化

これまでの取り組みによって当地域で楽しめるコンテンツが充実してきたこと、訪日外国人の増加と海外からの申込や問い合わせが増えたことから、観光地域づくりプラットフォームにおいて人員不足となっている。手配実績が増加する一方、職員の負担も大きくなっており対策が必要。

・民間事業者の巻き込み強化

観光地域づくりマネージャーが中心となり、民間事業者や地域住民の観光地域づくりへの巻き込みを図っているが、民間団体の観光地域づくりマネージャーが少ない。圏域内全体で活動できる民間団体からの観光地域づくりマネージャーを増やし、官民連携を強化する必要がある。

・地域の認知度不足

別府の認知度と比べるとその他地域の認知度が低い。滞在交流型観光を推進するためには、更なる認知度向上が必要。

I. 基本的事項

(1) 観光圏の区域

本計画においては、大分県北部地域の、別府市、中津市、豊後高田市、杵築市、宇佐市、国東市、日出町、姫島村の6市1町1村を圏域とし、豊の国千年ロマン観光圏の形成を図る。

①観光圏の概要

国際観光都市別府を擁する当地域は、瀬戸内海に面した大分県北部に位置し、低山地と丘陵が広がる内陸部と、波穏やかな海岸部により構成されており、四季の移ろいがはっきりと感じられる地域である。

地域全体としては、日本有数の温泉地である別府に加え、宇佐神宮の影響を受け国東半島で栄えた「六郷満山文化」など、神代から、古代、中世、近世、明治、大正、昭和と千年以上の時の流れを感じることができるほど歴史的な地域資源が豊富である。中でも、「宇佐神宮」、「富貴寺大堂」という2つの国宝をはじめ、数々の史跡など総体として魅力を発信する地域であり、誘客力を十分有しているといえる。

(2) 滞在促進地区の区域

①主たる滞在促進地区

●別府温泉滞在促進地区（別府市）

設定理由：別府地区は、年間800万人の観光客が訪れる日本を代表する温泉観光地であり、交通体系についても、市の中心部に位置するJR別府駅や、関西や四国からの玄関口である別府国際観光港を抱え、大分空港からのアクセスも良く、当圏域を周遊する旅の出発地点として最適である。

宿泊施設数：約340軒

②滞在促進地区

●中津滞在促進地区（中津市）

設定理由：中津市の中心街を中心にホテルやビジネスホテル、耶馬溪には旅館等が立地している。

●宇佐・国東半島滞在促進地区（宇佐・国東半島）

設定理由：グリーンツーリズムが進んでおり、外国人来訪者の受入も増えている。ホテルやビジネスホテル、旅館、キャンプ場などが立地している。

③交流地区

●神代の島 姫島交流地区（姫島村）

設定理由：神代の国生みの地である姫島では、大事に受け継がれてきた島ならではの郷土料理など、非日常の生活文化に触れることができる。

●神代の杜 宇佐神宮交流地区（宇佐市）

設定理由：神仏習合発祥の地である宇佐では、大事に受け継がれてきた信仰の暮らしや食文化等に触れることができる。

●古代の山 六郷満山交流地区（国東市・豊後高田市）

設定理由：神仏習合の山岳仏教である「六郷満山文化」が花開いた国東半島では、神仏への祈りの心に触れることができる。

●中世の村 田染荘交流地区（豊後高田市）

設定理由：１０００年前の景観をそのまま残している「田染荘」では、大事に受け継がれてきた農業文化や農業技術等に触れることができる。

●近世の町 河の城下町交流地区（中津市）

設定理由：交易と情報を得るために川を中心に造られた「城下町中津」では、大事に受け継がれてきた生活文化や生活技術に触れることができる。

●近世の町 坂の城下町交流地区（杵築市）

設定理由：多くの武家屋敷や老舗の商店を有する「城下町杵築」では、大事に受け継がれてきた武家社会の情緒に触れることができる。

●近世の町 海の城下町交流地区（日出町）

設定理由：別府湾の風光明媚な景観を有する「城下町日出」では、大事に受け継がれてきた文化や海岸線の景観に触れることができる。

●近代の街 別府温泉交流地区（別府市）

設定理由：近代から続く共同湯が多く残る別府では、情緒漂う湯けむりの景観、近代遺産や近代の日本人の知恵や暮らしに触れることができる。

●近代の街 昭和の町交流地区（豊後高田市）

設定理由：昭和３０年代の商店街の景観がそのまま残っている「昭和の町」では、大事に受け継がれてきた古き良き商人の心に触れることができる。

(3) 観光圏整備事業の実施体制

一般社団法人豊の国千年ロマン観光圏が観光地域づくりプラットフォームとなり、関係8市町村や各観光協会等が連携して、マーケティング調査・分析、滞在プログラム造成、ワンストップ窓口づくりなどを企画・調整する。

観光地域づくりマネージャーは、十分な知識と実務経験を有し、観光庁の研修を受けた者を配置。官・民・地域の橋渡し役となる観光地域づくりマネージャーを中心に戦略策定、合意形成を行う。

行政は、各主体との連携促進、2次交通対策、景観整備等についてプラットフォームと連携しながら、持続可能な観光地域づくりを推進する。

観光圏のターゲットは、国内市場は関東、海外市場は欧米豪を主なターゲットとすることで、誘客において自治体・観光協会との役割分担を図る。

(4) 観光圏整備計画の目標

数値目標

(1) 一人あたり旅行消費額

(円／人)	2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
日本人	35,042	36,268	38,370	39,596	40,822	42,050
外国人	51,021	52,806	55,867	57,652	59,437	61,225

出典：来訪者満足度調査

(2) 延べ宿泊者数

(千人泊)	2018 年	2024 年	2025 年	2026 年	2027 年	2028 年
日本人	2,758	2,763	2,768	2,773	2,778	2,883
外国人	663	596	729	762	795	828

出典：各市町村統計資料

(3) リピーター率

(%)	2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
日本人	49.8	51.8	53.8	55.8	57.8	59.8
外国人	26.2	27.2	28.2	29.2	30.2	31.2

出典：来訪者満足度調査

(4) 旅行者満足度（7段階評価のうち最高評価の割合）

(%)	2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
日本人	34.6	35.0	36.0	37.0	38.0	40.0
外国人	41.8	42.5	43.0	43.5	44.0	45.0

出典：来訪者満足度調査

その他の目標値

(5) 一年以内の再来訪意向（そう思う・計）

(%)	2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
日本人	67.1	67.6	68.1	68.6	69.1	69.6
外国人	74.8	75.3	75.8	76.3	76.8	77.8

出典：来訪者満足度調査

(6) WEB サイトのアクセス数

(PV)	2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
全体	108,844	112,653	119,183	122,992	126,801	130,612
英語サイト	1,832	2,300	4,500	5,500	7,400	10,000

出典：豊の国千年ロマン観光圏 HP

(7) 本地域での滞在が2泊3日以上

(%)	2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
日本人	25.3	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0
外国人	49.5	51.0	52.0	53.0	54.0	55.0

出典：来訪者満足度調査

(8) 宿泊施設で従業員の対応への満足度（そう思う・計）

(%)	2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
全体	73.2	74.0	75.0	76.0	78.0	80.0

出典：来訪者満足度調査

(9) 体験プログラムやツアーの満足度（そう思う・計）

(%)	2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
全体	51.8	55.0	58.0	62.0	65.0	70.0

出典：来訪者満足度調査

(10) 住民満足度・海外観光客への受容度／歴史文化エリア（歓迎する・計）

(%)	2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
全体	54.1	56.0	60.0	61.5	63.0	65.0

出典：大分県観光受入に対する受容定量調査（公益社団法人ツーリズムおおいた提供）

(11) 体験プログラムやツアーの実績（件数）

件	2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
全体	249	280	350	400	450	500
外国人	56	75	100	115	130	150
欧米豪	34	45	70	80	90	100

出典：（一社）豊の国千年ロマン観光圏実績

観光地域づくりマネージャーの育成等を通じた継続的・自律的な活動体制の確立等の目標

行政と民間、地域の橋渡し役となる観光地域づくりマネージャーは、各市町村に1名以上育成し、観光地域づくりマネージャーを中心に、民間主導での取り組みを持続的に行っていく。

各市町村を担当する観光地域づくりマネージャーに加え、圏域内全体において取り組める民間の観光地域づくりマネージャーの育成を強化し、毎年1名ずつ増員することを目指す。

（５）計画期間等

計画期間は、2024年4月1日から2029年3月31日までの5年間とする。

計画の全期間を通じて毎年、来訪者満足度調査を実施しながら、計画の遂行状況や達成状況を測定する。

その結果をもとに、検証を行い、必要に応じて適宜計画の見直しを行い、事業に反映させる。

（６）住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映状況

本観光圏は、8市町村の観光まちづくりに関係する多種多様な主体（自治体、観光協会、宿泊施設、交通事業者等）が地域住民の代表として観光地域づくりプラットフォームとなる一般社団法人豊の国千年ロマン観光圏の構成員となっている。住民その他利害関係者の意見や圏域内のニーズ把握については、観光地域づくりマネージャーが橋渡し

役として担い、一般社団法人豊の国千年ロマン観光圏の総会、理事会、幹事会、戦略会議、マネージャー会議等にてその意見を反映する場を設けている。

また、圏域内各市町村において、地域住民と本観光圏の方向性や、滞在プログラムの造成などについて検討するワークショップを開催した。

今後も、関係団体との意見交換を行い、住民その他利害関係者の意見を反映できる体制を運営していく。

（７）地域住民の観光地域づくりに対する意識啓発と参加促進を目指すための取組

観光地域づくりプラットフォームとなる一般社団法人豊の国千年ロマン観光圏は、旅行業２種を活用して地域住民が企画するガイドツアーや体験プログラムを販売しており、観光地域づくりに意欲のある地域住民はいつでも参加できる体制にある。観光地域づくりをテーマとするセミナーやワークショップを継続して開催しており、地域住民や民間事業者の観光地域づくりへの参加を促している。

Ⅱ．観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針

(1) 「豊の国千年ロマン観光圏」整備の必要性

東九州自動車道の開通により、九州東側が南北に結ばれるだけでなく、中四国・近畿との交流・連携をはじめとする地域産業の振興をはじめとした地域活性化に大きく寄与し、大分県北部地域に与える効果は多大なものとなった。この東九州自動車道を将来にわたって最大限に活用するとともに、圏域内に大分空港、近隣に北九州空港を有し、九州のインバウンドの入り口となる福岡空港へのアクセスも良い大分県北部地域の優位性を活かした新たな地域振興を図っていくためには、広域的な観光ルートの形成や飛行機、鉄道など多様な交通機関との連携などの幅広い取組である観光圏整備が必要不可欠である。

豊かな歴史文化に加え、古来から続く祭りや自然、新鮮な食材など、地域の秀でた資源を活用し、従来からの「個の努力」「個の磨き」に加え、地域全体としての総合力を高め、持続可能な観光地域づくりを推進する観光圏を形成するとともに、海外観光客（インバウンド）も含め別府などの温泉資源とともに国際競争力の高い観光地形成に取り組んでいく。

(2) 理念

**場所文化を次の千年へと伝えるために
千年の歴史を「今」生きる人が語り紡ぐ**

千年を超える歴史のバトンを次の世代へ、そして、千年後の世代へと受け渡していくために、これまでの千年の歴史をその時代その時代の「今」という時間において大切に守り、語りつなぎ、新たな歴史を紡ぎだす。

(3) ブランドコンセプト

「千年の記憶がひもとく知られざる日本」 ～千年ロマン時空の旅～

大分県北部地域にある8市町村に息づく神代・古代・中世・近世・近代の千年を超える歴史。現在の日本を形づくってきた歴史が記憶となってこの地に刻まれている。

この地の歴史の始まりとも言えるのが1300年前に宇佐神宮から生まれた「神仏習合文化」。神と仏が融合した世界に類を見ない信仰文化、これこそが日本人の「和の心」の

礎となったのではないだろうか。この神仏習合文化が、宇佐・国東半島に時を越えて今もなお残る「六郷満山文化」である。

宇佐神宮は九州の3分の1程の荘園を有していたが、その力は歴史と共に失われていった。そこから各地域は独自の発展を続け、中津・杵築・日出では独特な形態をした城下町が形成され、別府は世界的な温泉観光地となり賑わいをみせた。時は流れても六郷満山文化はお寺を中心として、地域の人々と共に今に受け継がれている。

豊の国千年ロマン観光圏は、知られざる日本の姿を体感できる場所。千年ロマン時空の旅でその歴史をひもといていく。風景や文化、地域の人々の生活、歴史を伝える神社仏閣、それぞれの体験や出会いはきっと忘れていた何かを見つけ出す、記憶に残る旅になるだろう…。

(4) 基本方針

豊の国千年ロマン観光圏では、次の3つの方針を掲げる。

基本方針

方針1 地域一体となった滞在交流型観光の推進

観光業だけでなく、農業、林業、漁業、商工業など業種を超えた「連携」を図り、地域一体となって滞在交流型観光を推進する。当圏域の歴史・文化・自然・食等の固有の資源を活用するとともに、地域住民との交流を促し、2泊3日以上滞在交流型の観光ができる地域を目指す。

方針2 国内はもとより海外を含めた、積極的な誘致活動

世界一の温泉郷「別府」の知名度の高さを活かし、「豊かな自然資源」「食・食文化」「独特な歴史文化」など、まだ知られていない当圏域の魅力を発信し、認知度向上につなげる。

インバウンドの回復に伴い、これまで以上の誘客と消費額の拡大を図る。

方針3 「住んでよし・訪れてよし」の観光地域づくりの推進

観光振興が地域社会・経済に好循環を生む仕組みづくりを推進するとともに、地域住民の理解を得ながら、地域の自然・文化の保全と観光を両立させる。観光資源の消費ではなく、来訪者と地域住民との交流を促進することで、地域社会・経済に好循環を生む仕組みづくりを行い持続可能な観光地域づくりを推進する。

Ⅲ. 観光圏整備事業の概要

「豊の国千年ロマン観光圏」のブランドコンセプト、基本方針に基づき、持続可能な観光地域づくりを目指す。

地域住民が主役となる滞在プログラムの造成の他、滞在促進地区・交流地区ごとに魅力の磨き上げ、主たる滞在促進地区から各滞在促進地区・交流地区をめぐる交通手段の整備などの周遊を促進する事業を行い、受入れ整備を行う。

ブランド戦略を策定し、ターゲットを明確にした上で効果的なプロモーションを行っていく。

(1) 宿泊サービスの改善及び向上

○観光品質認証事業

実施主体：（一社）豊の国千年ロマン観光圏

実施期間：2024 年度～2028 年度

事業概要：観光品質認証制度「サクラクオリティ」の普及による宿泊の魅力向上。
食、滞在コンテンツの品質認証制度の確立を目指す。

(2) 観光資源を活用したサービスの開発及び提供

○滞在コンテンツ造成事業

実施主体：（一社）豊の国千年ロマン観光圏

実施期間：2024 年度～2028 年度

事業概要：地域の持続可能性を高める滞在コンテンツ、旅行商品の造成

○広域ガイド育成事業

実施主体：（一社）豊の国千年ロマン観光圏

実施期間：2024 年度～2028 年度

事業概要：圏域内を周遊できるガイドの育成。圏域内における多言語ガイドのネットワーク作り。

○アドベンチャーツーリズム事業

実施主体：（一社）豊の国千年ロマン観光圏

実施期間：2024 年度～2028 年度

事業概要：欧米豪市場をターゲットとしたアドベンチャーツアーの造成

(3) 移動の利便性の向上

○サイクルツーリズム事業

実施主体：（一社）豊の国千年ロマン観光圏

実施期間：2024 年度～2028 年度

事業概要：圏域内の二次交通手段としてサイクルツーリズムの推進

(4) 情報提供の充実強化

○全国観光圏推進協議会「Undiscovered Japan」情報発信事業

実施主体：(一社) 豊の国千年ロマン観光圏

実施期間：2024 年度～2028 年度

事業概要：全国 13 観光圏が連携したインバウンドプロモーション。

○プロモーション推進事業

実施主体：(一社) 豊の国千年ロマン観光圏

実施期間：2024 年度～2028 年度

事業概要：国内外へのプロモーション・セールス。WEB サイトの充実等。

○観光案内所連携強化事業

実施主体：(一社) 豊の国千年ロマン観光圏

実施期間：2024 年度～2028 年度

事業概要：観光案内所職員の研修。情報共有・連携の促進。

(5) 地域住民が一体となった観光地域づくりの推進

○地域活性化プロジェクト事業

実施主体：(一社) 豊の国千年ロマン観光圏

実施期間：2024 年度～2028 年度

事業概要：地域住民が主体となった観光地域づくりの推進

(6) その他

○全国観光圏推進協議会事業

実施主体：(一社) 豊の国千年ロマン観光圏

実施期間：2024 年度～2028 年度

事業概要：全国 13 観光圏での協議会運営。観光地域づくりマネージャーの育成等

○全国観光圏共通マーケティング調査事業

実施主体：(一社) 豊の国千年ロマン観光圏

実施期間：2024 年度～2028 年度

事業概要：マーケティングデータの収集・分析。

○アウトリーチ事業

実施主体：(一社) 豊の国千年ロマン観光圏

実施期間：2024 年度～2028 年度

事業概要：データを活用した戦略策定（ターゲット、情報発信戦略、KPI 設定等）と合意形成。国際基準「GSTC」の活用、国際認証の取得を目指し、圏域内での国際認証の取得に向けて環境整備を進める。

○九州観光圏連携事業

実施主体：（一社）豊の国千年ロマン観光圏

実施期間：2024 年度～2028 年度

事業概要：九州内の観光圏や DM0 と連携し、九州の認知度向上を図る。

Ⅳ. 協議会に関する資料等

別紙

V. その他市町村又は都道府県が必要と認める事項

観光圏整備計画は、「千年の記憶がひもとく知られざる日本・・・千年ロマン時空の旅」をブランドコンセプトに、圏域の地域資源が持つそれぞれの魅力を連携し、地域が一体となって取り組むものである。

当圏域内において別途計画されている社会資本整備事業との整合性を図り、相互に連携し、観光を軸とした地域づくりを推進することを目指す。

(1)観光資源としての魅力向上

国東半島・宇佐地域の「世界農業遺産」の認定や、姫島の「日本ジオパーク」の認定、「別府湾岸・国東半島海への道」の日本風景街道の認定、中津・玖珠、国東市・豊後高田市の日本遺産の認定など、圏域内の観光資源の魅力向上に繋がる話題が続いており、それに伴い、県及び市町村としても、こうした契機を地域の活力向上に繋げるため、さまざまな関係する取組を進めているところである。また、こうした取組は豊の国千年ロマン観光圏と連携することにより、一体的に広域的な観光振興に繋げるものとしている。

(2)圏域内の移動の利便性の向上・快適性

・中津日田道路（地域高規格道路）の整備

中津日田道路は、東九州自動車道や九州横断自動車道と連結することによりさらなる広域的な循環型ネットワークを形成することが可能になる地域高規格道路である。

中津日田道路が供用されると、東九州自動車道、九州横断自動車道の3つの軸によって、3ブロック（中津ブロック、日田ブロック、大分・別府部ブロック）が密に連携する一体性の高いトライアングル構造の圏域構造が実現することが期待されている。